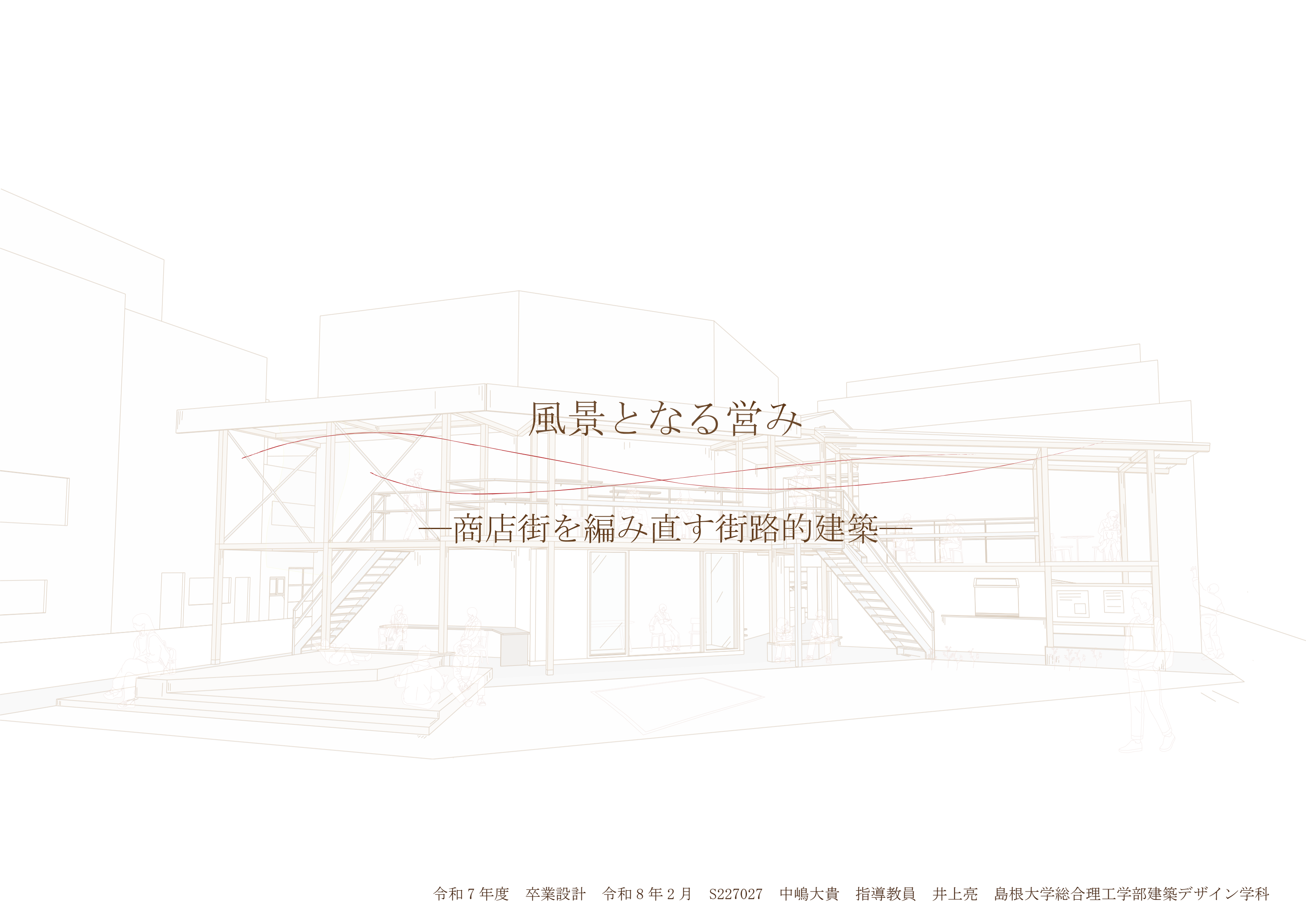




風景となる営み

—商店街を編み直す街路的建築—

0 計画概要

地方都市における魅力を探る

近年、都市では再開発によって均質化・巨大化・無機質化が急激に進行し、多様な人の関係性や、個人の居場所が失われている。
鳥取駅前においても、再開発の一環として、文化・商業複合ビルの建設が計画されているが、
既存の商店街や中心市街地のさらなる衰退に拍車をかけてしまうのではないかと考える。
そこで、今、都市に残されたモノに目を向け、新たな価値・魅力を見出すことによる街の活性化を目指す。

商店街に織り込む公共性

現地調査を通して、閑散とした市街地の中にも、隠れながらも存在する小さな営みや、偶発的に生まれる交流などが見られた。
かつて日常の一部として位置づけられていた商店街に、
街の日常が現れ、さらに、新たなコミュニケーションを誘発するような建築提案を行う。

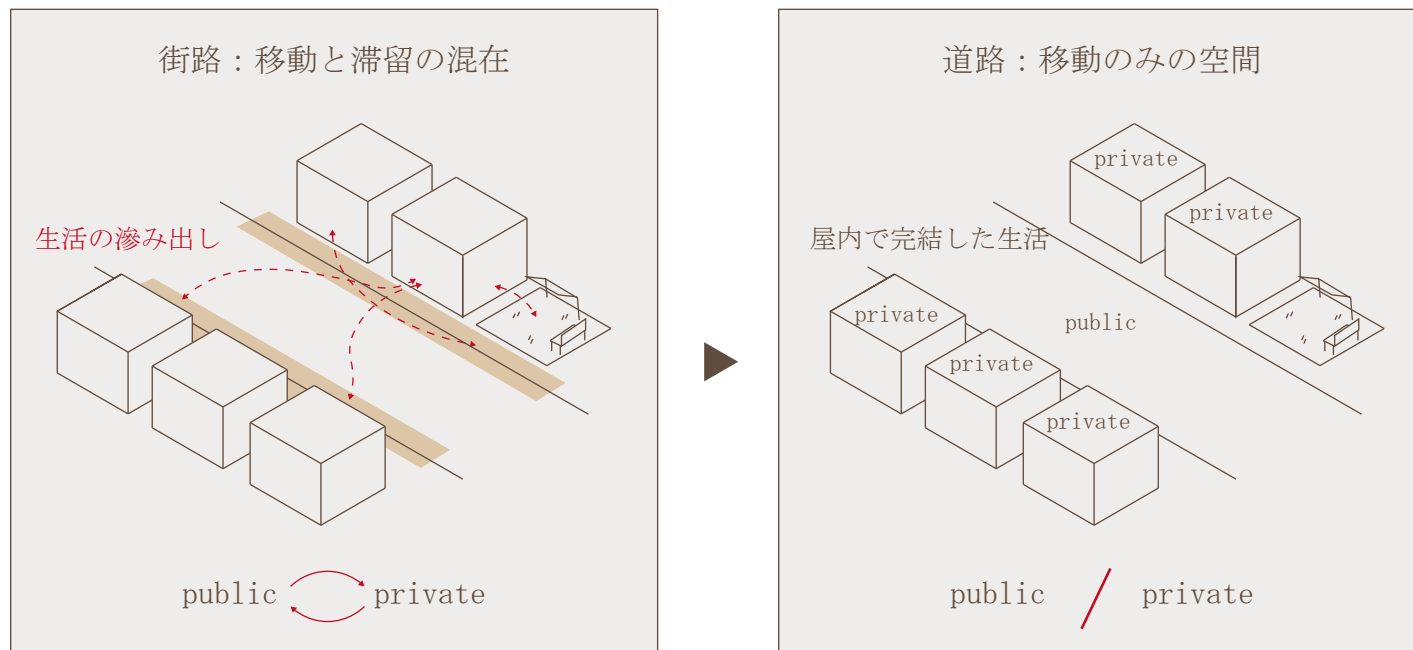
自分たちで描く街の未来

様々な要因により衰退化していく地方都市において、
大きく短期間での開発ではなく、もっと小さく長期的に、
この街に関わる一人ひとりの些細な日常・営みが集まり、街に現れ、広がっていく。

1 背景・目的

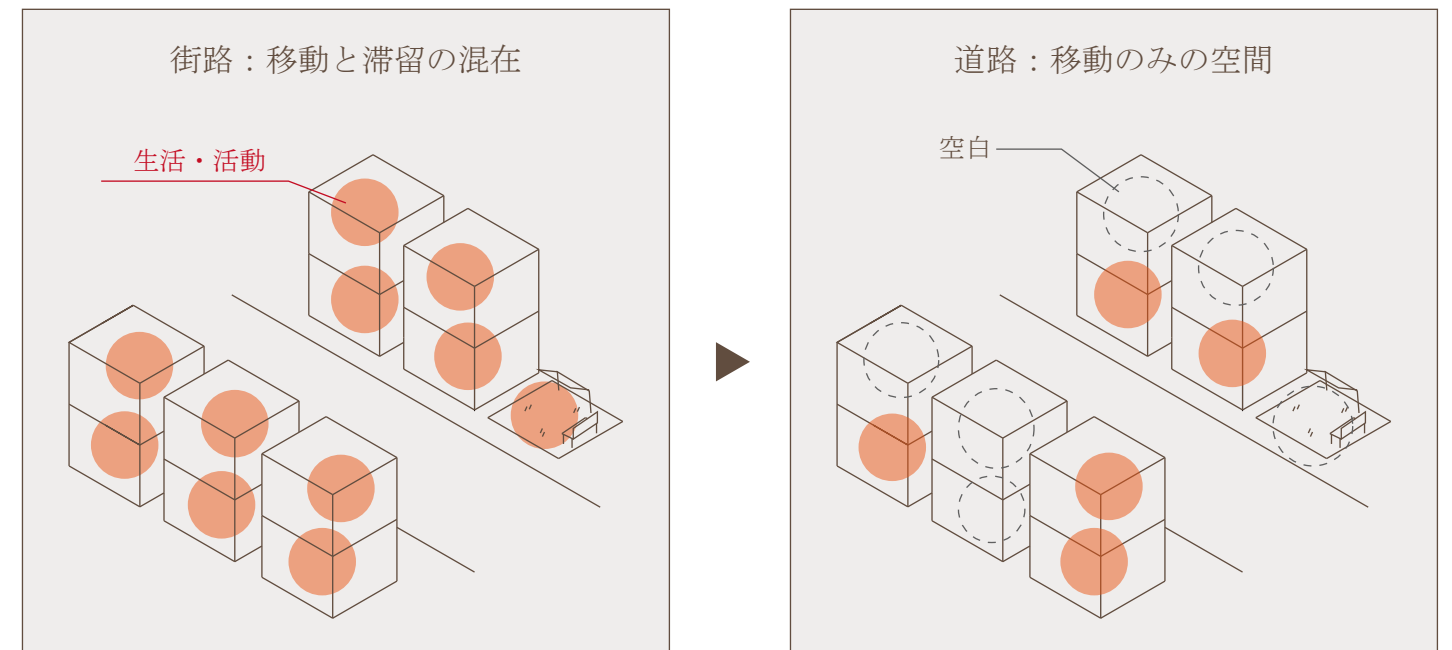
失われた街路的空間

かつて、人々の生活は屋外にまで広がり、**街の風景の一部**であった。しかし、時代の変化に伴い、建物内外で公私は分断され、人の活動は屋内で完結するようになった。かつて街を彩っていた風景の要素の一部としての「**人々の生活**」は**屋内空間に閉ざされ、姿を隠してしまった**。



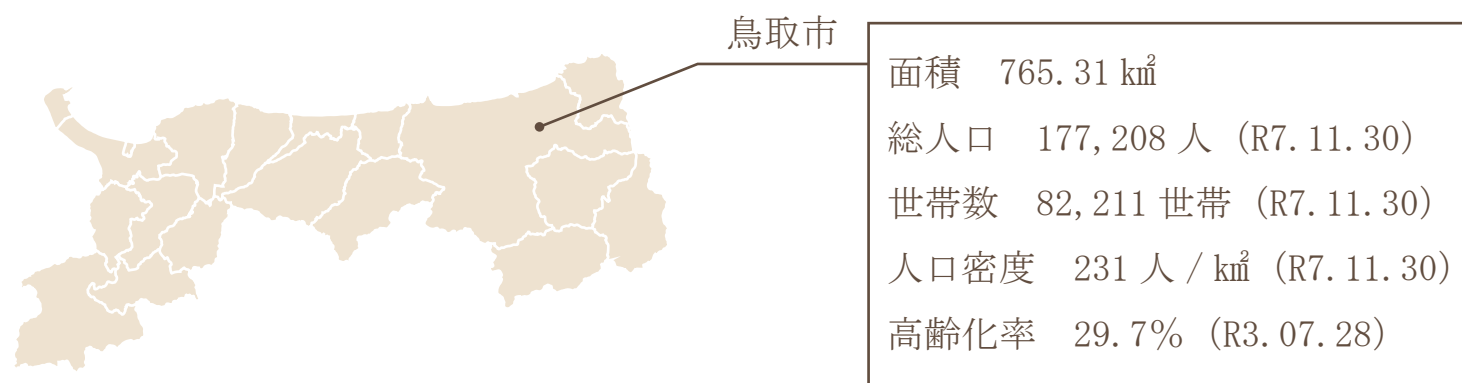
地方都市に残された空白

高度経済成長期以降、各地で盛んにおこなわれた都市開発により建てられたビルは、多くの人の**活動を受け止めていた**。しかし、都市機能の分散や需要の低下などにより、現在の地方都市には、**空きビルや空きテナント＝「空白」**が多く残る。地方都市に残された空白は、空間資源を無駄にし、その街の衰退に一因となっているとも考えられる。



地方都市に残された「**空白**」を、
多様な人が活動・交流し、街の活性化につながるような「**余白**」に再編することを試みる。

2 敷地：鳥取県鳥取市 鳥取駅前サンロード商店街



鳥取駅前商店街の歴史

鳥取駅

1912 年 山陰鉄道 京都～出雲間（現在の山陰本線）全通
→市街地の中心が、若桜街道と本通商店街に移り、
旧袋川と鳥取駅間の水田地帯は急速に市街化が進む

高架前

1971 年 鳥取駅前商店街で 193 店舗を焼く大火事発生

高架後

1978 年 鳥取駅の高架化・駅前に続々とビル建設開始
→均質的・無機質な風景

1980 年 駅前サンロードにアーケードが完成

2013 年 開閉式大屋根空間「バード・ハット」完成



1975 年 丸由百貨店
（当時：鳥取大丸）



バード・ハットでの
イベントの様子



駅から見た
サンロード商店街

3 調査・分析：意識的に街を歩く

駅前空間・対象商店街・市街地広域の調査から、課題点とともに、小さな交流、営み、日常のカケラなどが見られた。

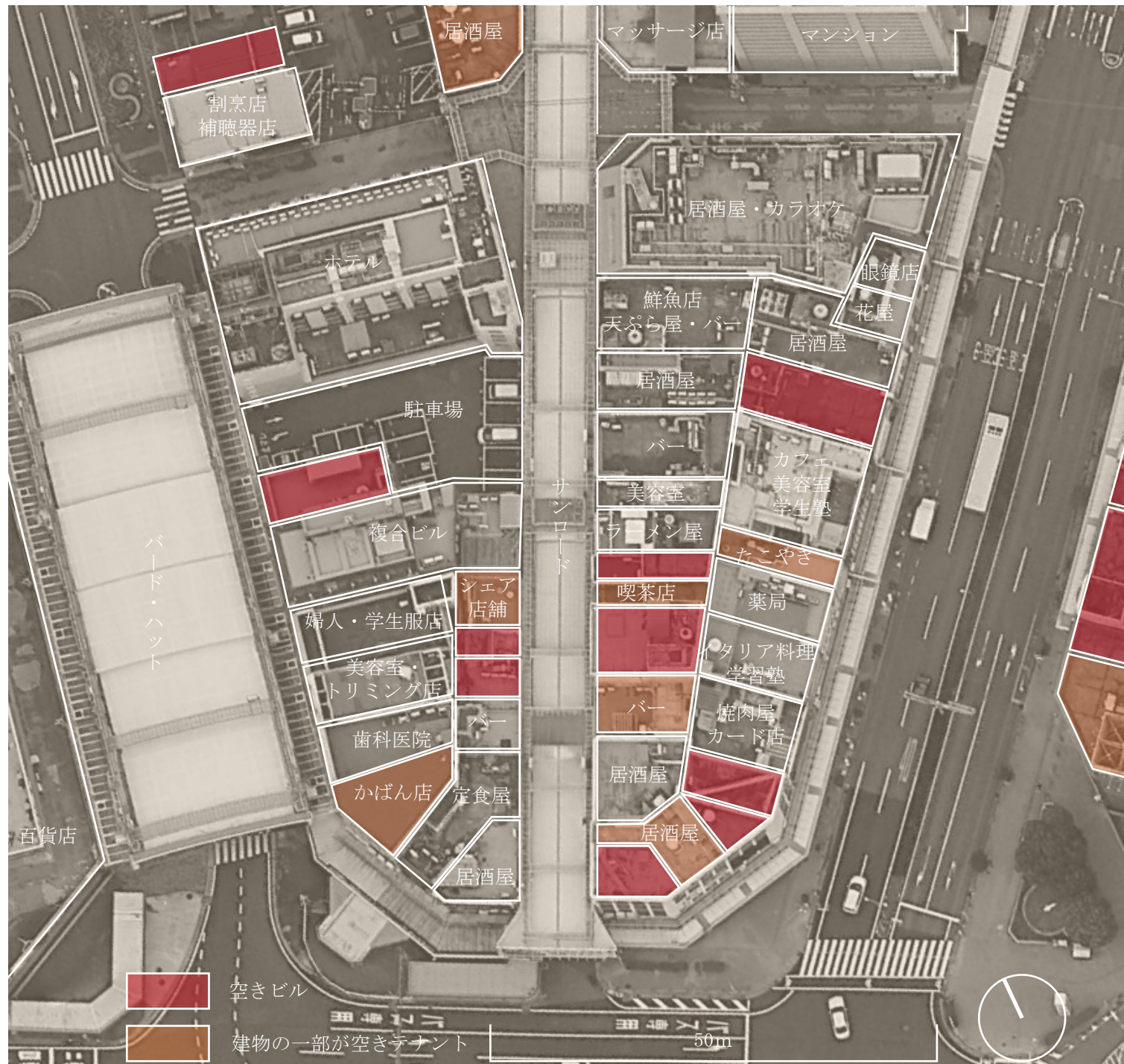
都市開発において見過ごされがちな街に存在する日常が、地方都市の魅力を引き出し、活性化させる可能性があるのではないかと考える。



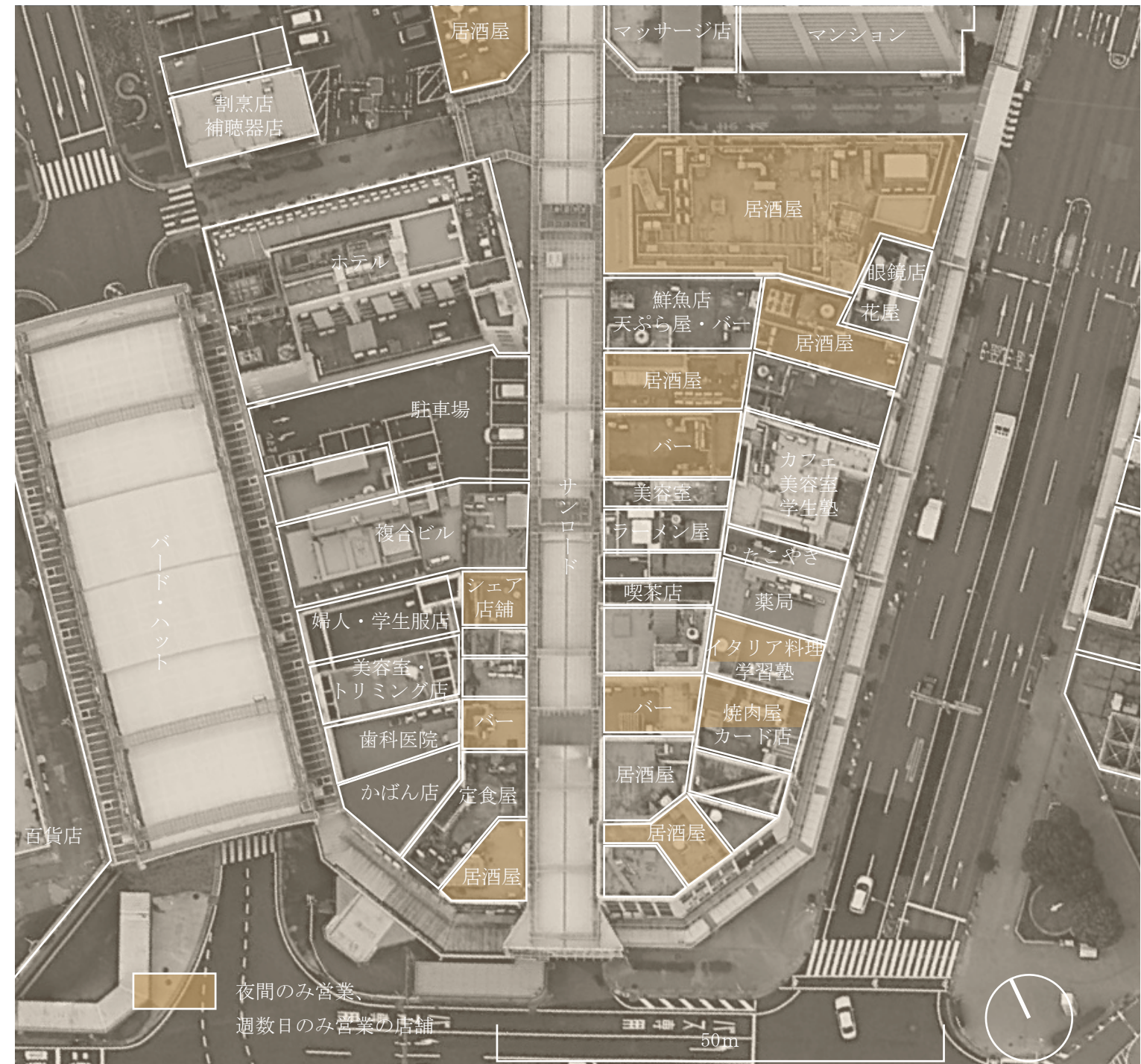
4 調査・分析：敷地の現状を読み取る

設計に先立ち、この商店街の現状を把握するために、空きテナントや空きビル、店舗の種類等を調査し、地図に記入した。この地図より、この商店街にも**多くの「空白」が連続的に存在している**こと、さらに、夜間営業のみの店舗や週数日営業のみの店舗も多く、**昼間は特に商店街としての連続性・一体性が失われている**ことが分かった。

空白の状況と店舗種類



店舗の営業時間



5 調査・分析：固定化された人の流れ

この商店街は駅前に位置するにもかかわらず、人通りが少なく、駅から街への人の移動が少ない。

現地調査を行い、駅と市街地の間にある幅のある道路により空間が分節され、人の流れは限られた経路に集中していることに気づいた。

さらに、道路に沿った線的な流れが強く、かつての街路が内包していた回遊性や偶発的な交流、探索的な歩行体験が失われていると感じた。



強すぎる動線・軸

市街地側を歩く人のほとんどが、駅北口から放射状に延びる道路のうち、メインの通りである県道 192 号線を通過し、この商店街に入り込む姿はほとんどみられない。

人々は駅前を「通過する」ことを主とし、空間に留まり、関係を生むような使われ方は限定的となっている。

大きな壁となっている駅前の道路

駅前には、県道 43 号線が東西に伸び、通勤・通学など市街地側に目的がある人々が横断する様子は見られる一方で、観光名所目的の来訪者や送迎や待ち合わせとして駅前に訪れる地域住民など、市街地側に目的を持たない人は、バス乗り場や駅構内などにしか立ち寄らず、市街地には人の移動・滞在が少ない。

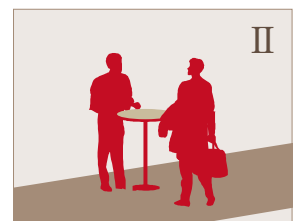
6 計画：商店街に公共性を織り込む

かつては商業だけではなく無意識的に生活空間・公共空間としても成立していた商店街だが、現在では、街の日常からかけ離れ、関係は希薄化し、衰退が進んでいる。この、意味が問い直されている空間に、公共空間を計画する。現地でのフィールドワークと、地域住民や商店街関係者、来訪者などへの聞き取り調査から得られた需要からプログラムを決定する。

目的



I
駅から街・商店街へ
人を誘導する



II
住民同士、
住民と観光客の交流

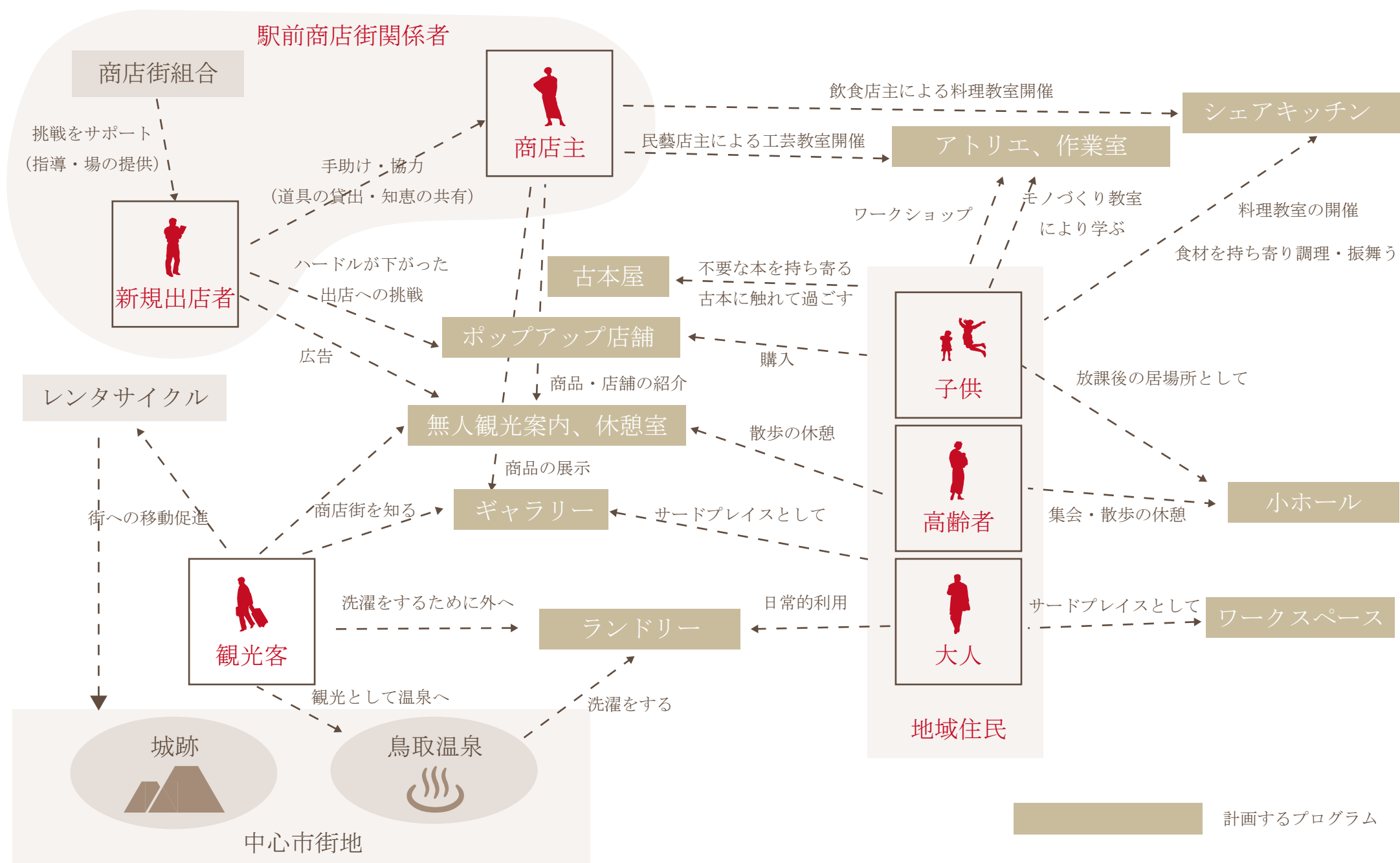


III
日常と非日常を
街に表出する



IV
日常の延長にある
街の新たな居場所へ

内包するプログラムと、計画により生まれるネットワーク



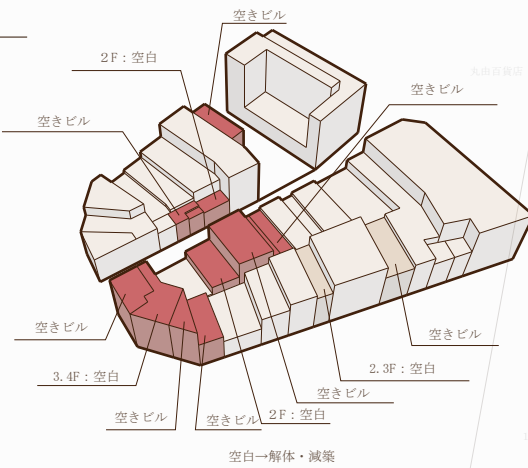
7 構成：都市に想いが表れる建築

全体構成：配置図兼 1 階平面図

手法：都市の空白を縫うように

I. 解体と減築の場を選ぶ

現地調査の結果から、
空きビル・空きテナント、暗く閉ざす印象を与える老朽化したアーケードを解体、減築する。閉ざされ、役割の持たない空間を都市に開放する。

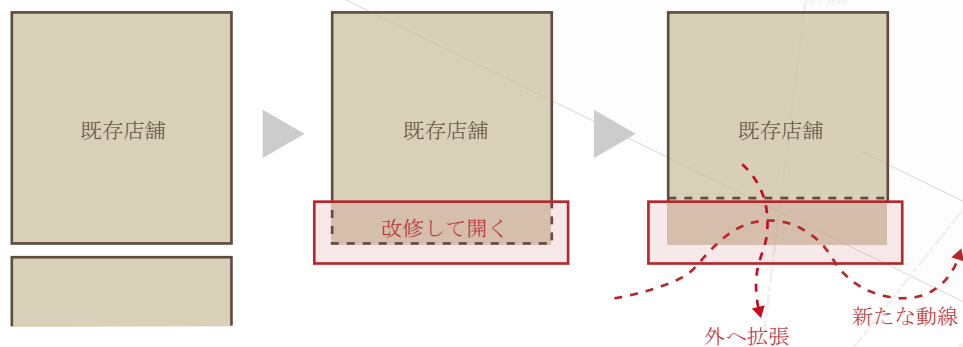


II. 街に開かれた多様な人を許容する新たな空間を計画する

柱・段差による空間の分節、開口の多い壁、基礎を立ち上げることで、視覚的に抜けを作りながらも開放的かつ決まり切らない多様な流れを作り出す。
さらに、壁とは違い、柱や段差は人の拠り所となり、滞留を誘発する。

III. 残る建物を改修し、屋内活動を外に拡張する

残された既存建物の開かれた空間に接する壁面に、改修を行い、屋内のみで完結していた活動を屋外にも拡張することで、日常を街の風景として表出させる。



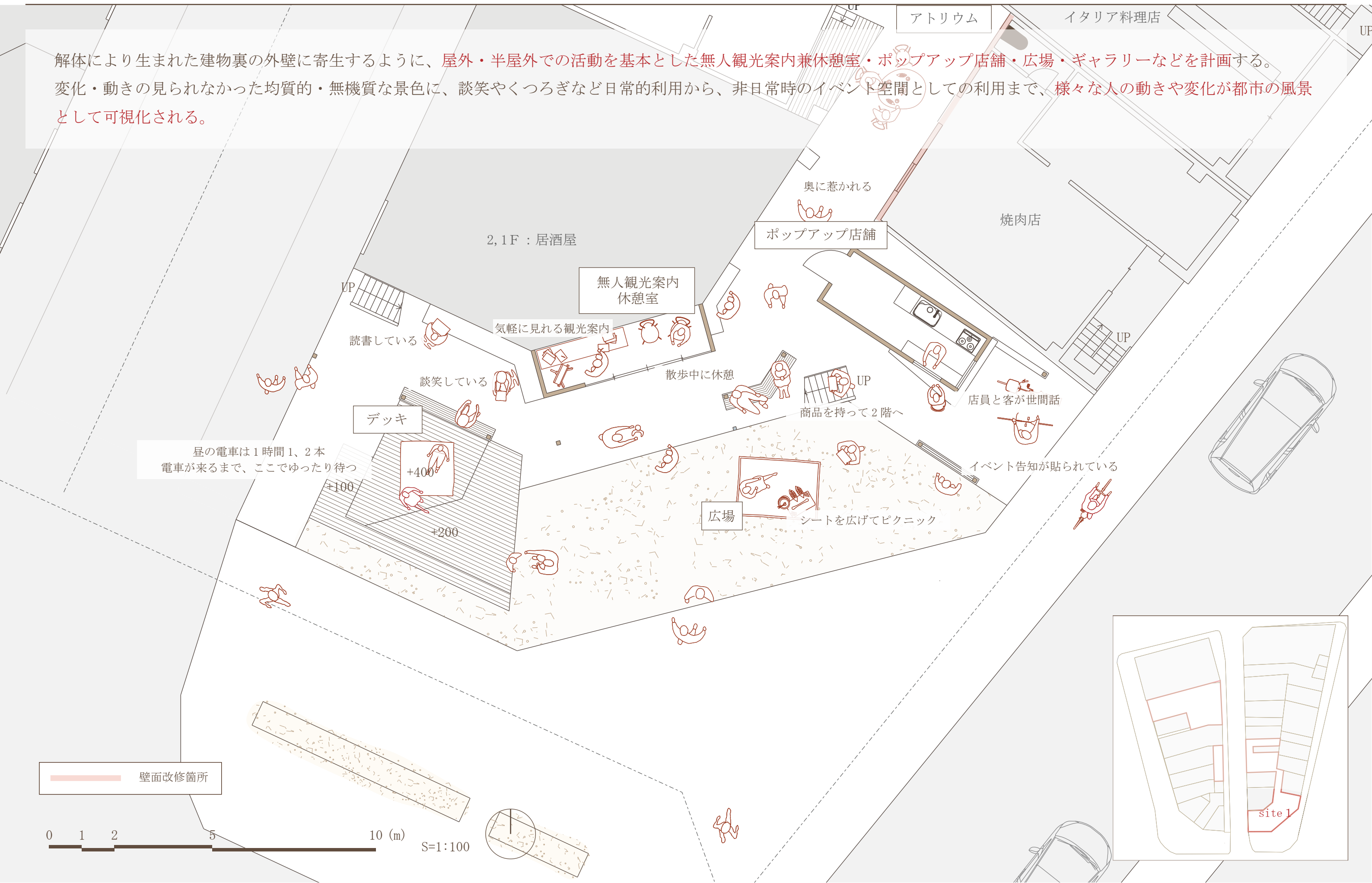
多様な人の介入を許容し、新たな交流や活動を促すこの空間には、かつての街路のように移動と滞留がまじりあい、新たな日常が街に表出する。



8 設計：広場 / ポップアップ店舗 / 観光案内 / ギャラリー

部分詳細：配置図兼1階平面図

解体により生まれた建物裏の外壁に寄生するように、屋外・半屋外での活動を基本とした無人観光案内兼休憩室・ポップアップ店舗・広場・ギャラリーなどを計画する。変化・動きの見られなかった均質的・無機質な景色に、談笑やくつろぎなど日常的利用から、非日常時のイベント空間としての利用まで、様々な人の動きや変化が都市の風景として可視化される。



敷地現状詳細

■ 立地特性

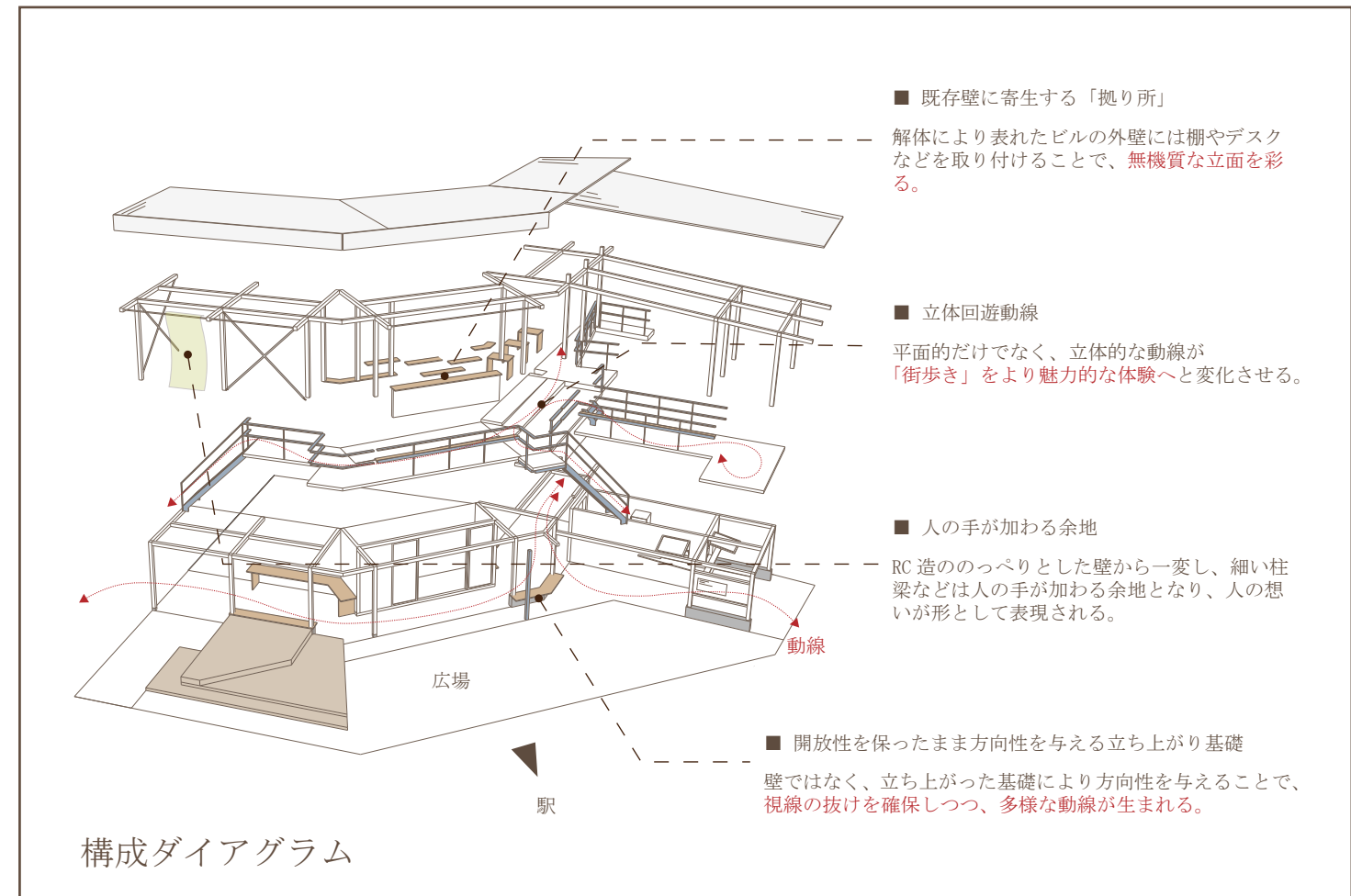
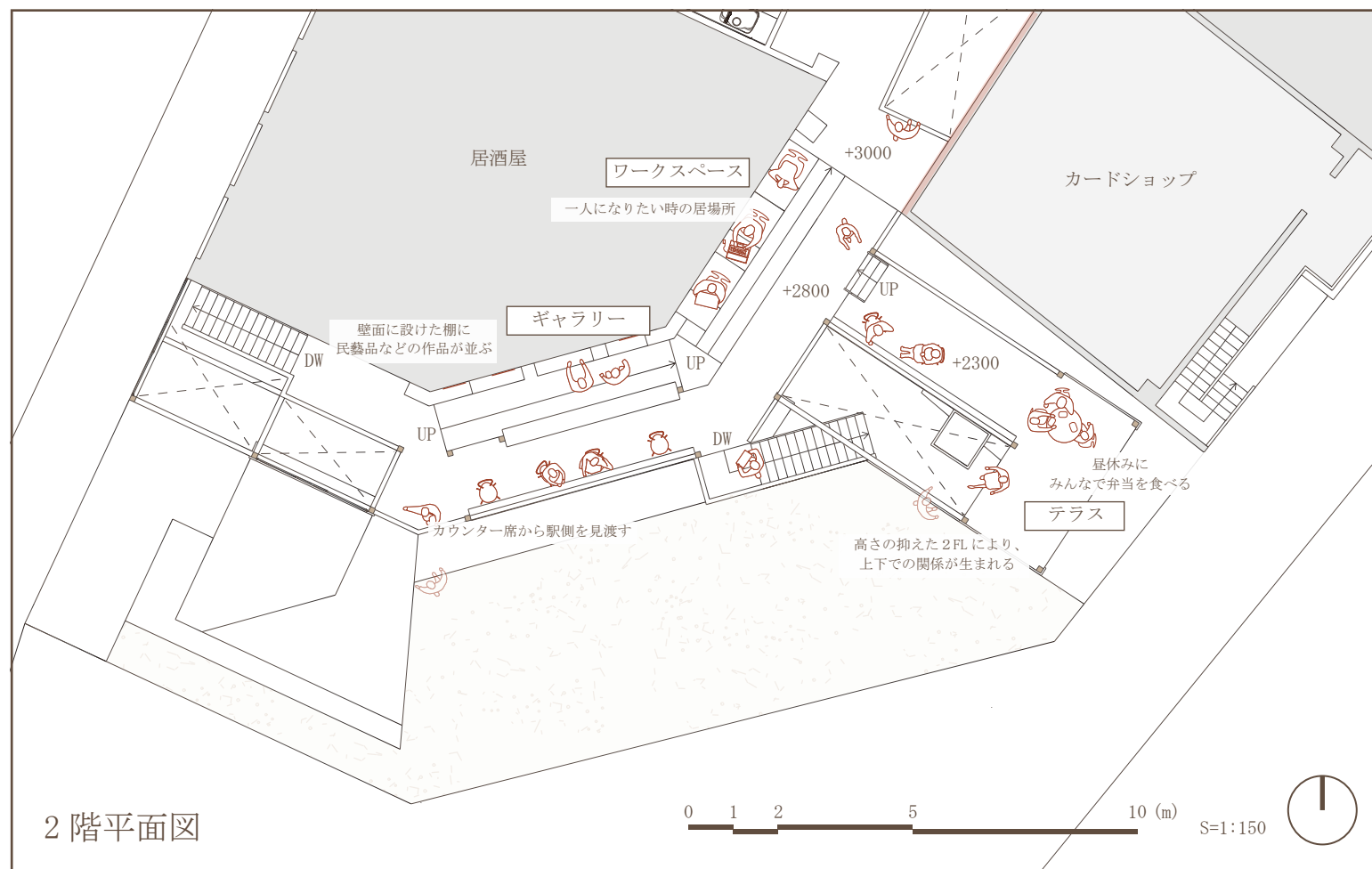
計画対象の商店街の中で、
駅からの視認性が最も高い立地

■ 解体・減築対象建物

解体:1、2 階の一部と 3、4 階の全体が空白であり、
駅利用者に廃れた印象を与えている。

減築:1 階に焼肉店、2 階にカードショップ。
裏側を減築し、抜け道を作る。

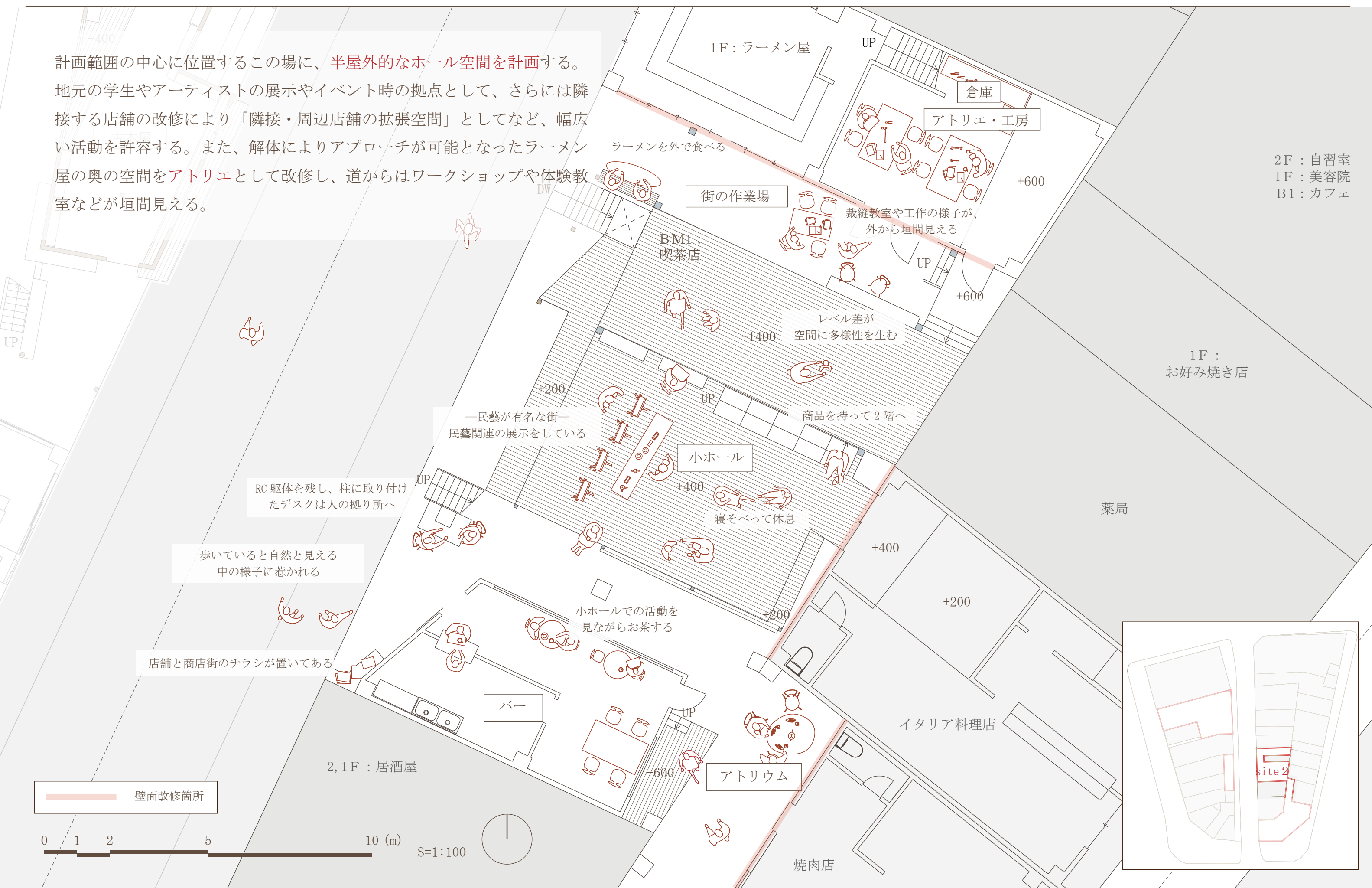
駅側から見た様子。休憩・待ち合わせ・散策など、多様な人が半屋外の空間に集う



9 設計：小ホール / アトリエ

部分詳細：配置図兼1階平面図

計画範囲の中心に位置するこの場に、**半屋外的なホール空間を計画**する。地元の学生やアーティストの展示やイベント時の拠点として、さらには隣接する店舗の改修により「隣接・周辺店舗の拡張空間」としてなど、幅広い活動を許容する。また、解体によりアプローチが可能となったラーメン屋の奥の空間を**アトリエ**として改修し、道からはワークショップや体験教室などが垣間見える。



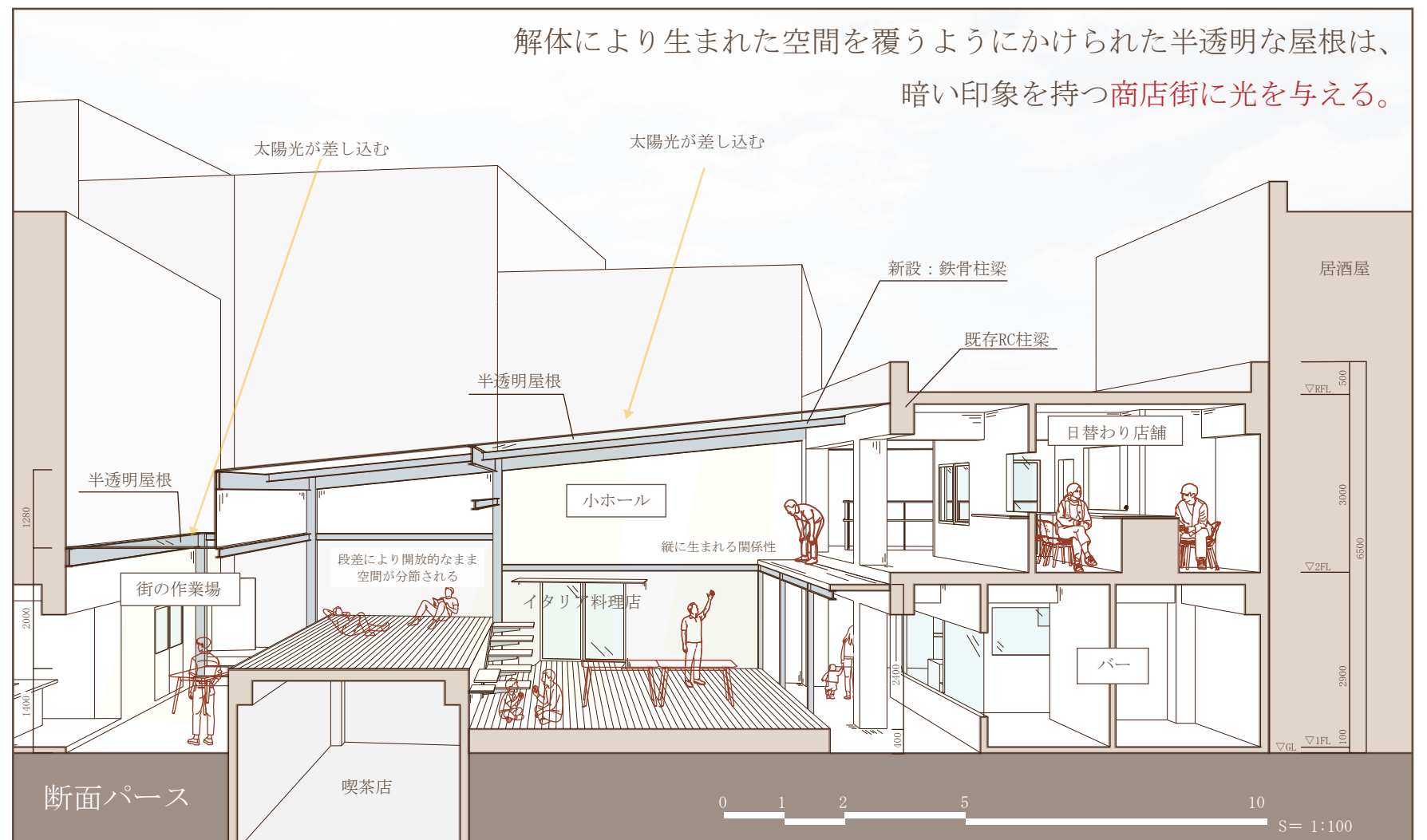
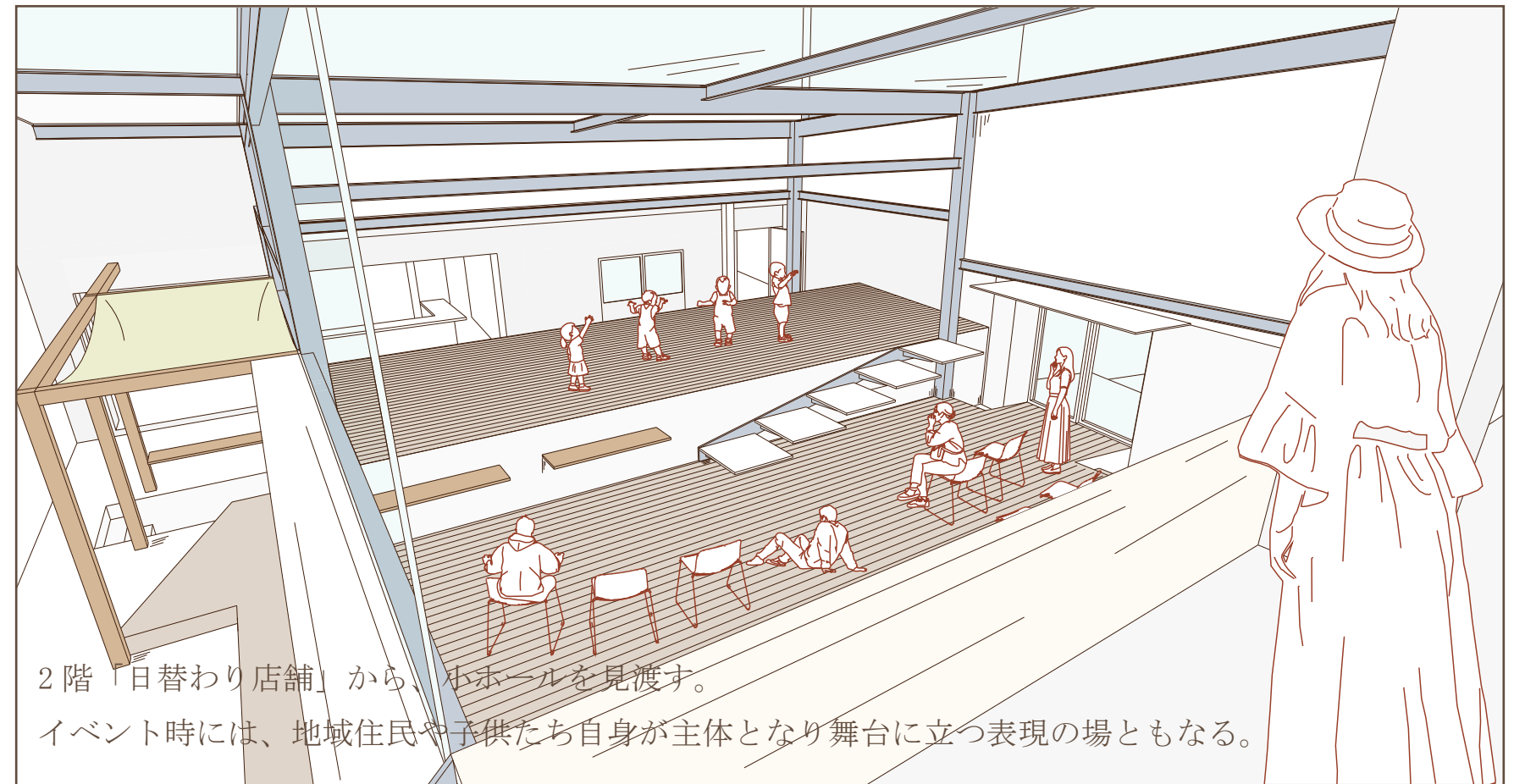
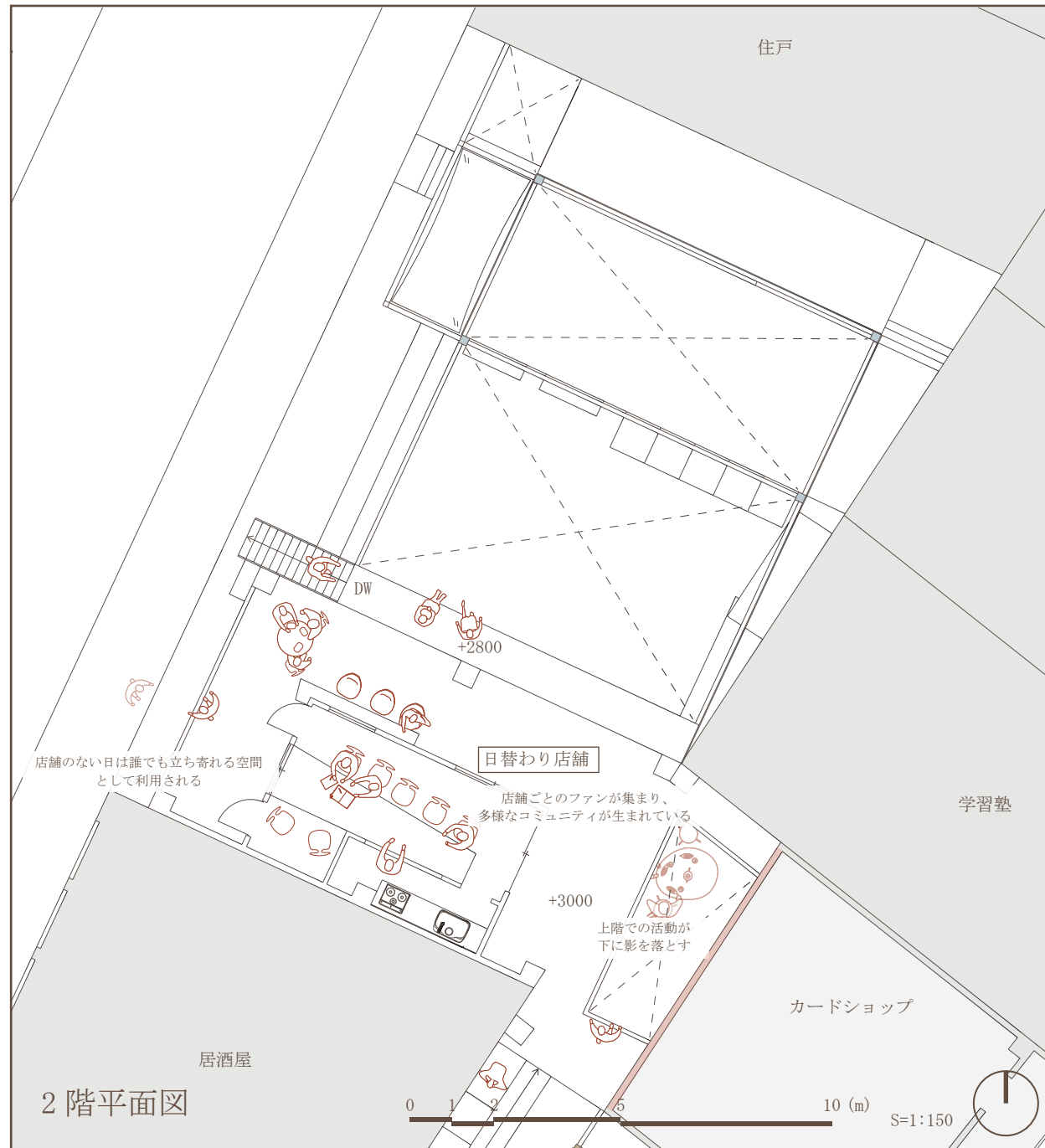
敷地現状詳細

■ 立地特性

計画対象範囲の中心に位置する、老朽化の激しいビルが並んでいる。

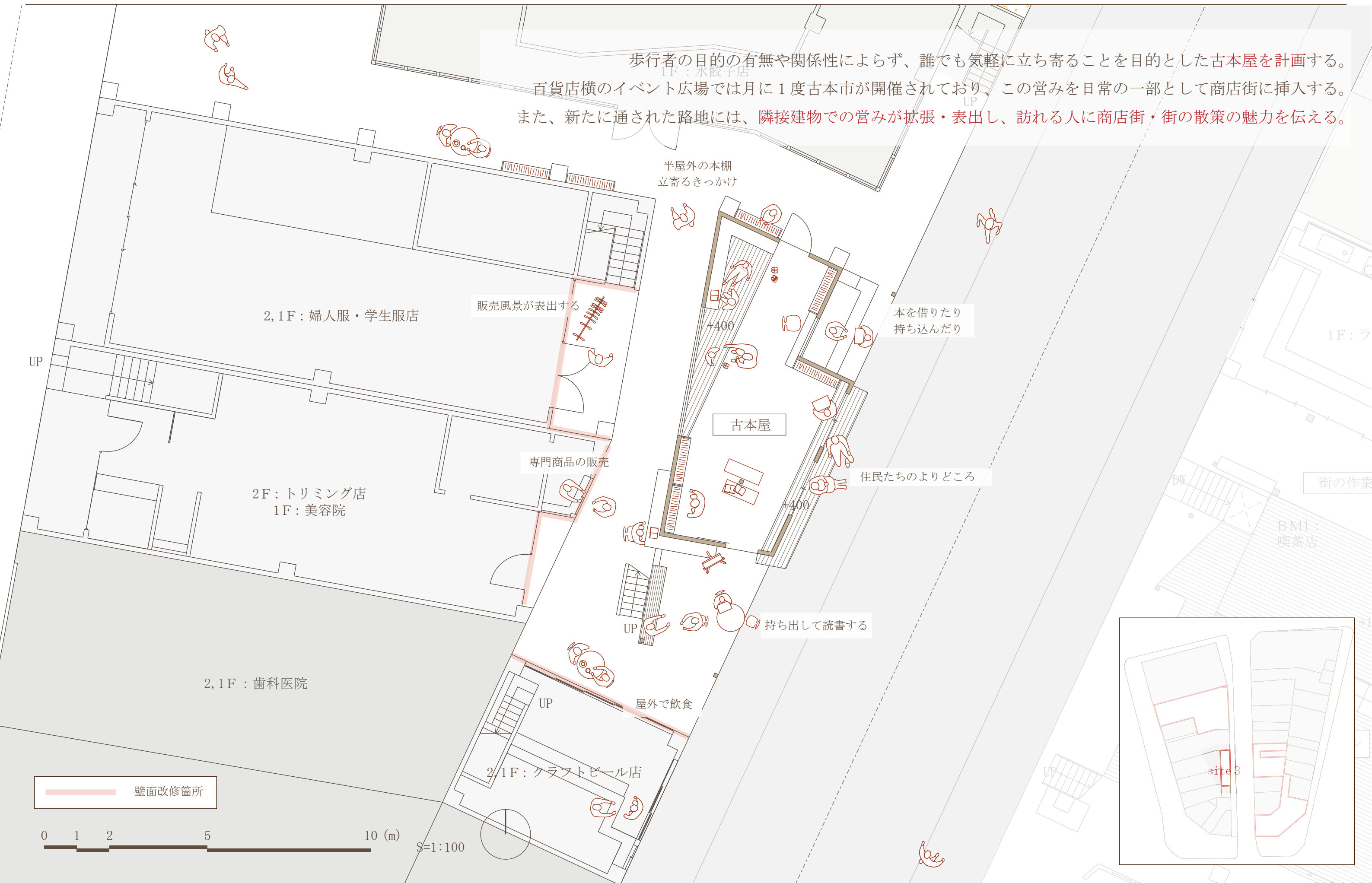
■ 解体・減築対象建物

かつて青果店だったビルなど2棟を解体。1階にバーが入る建物、半地下1階に喫茶店が入る建物、ラーメン屋を改修する。



10 設計：古本屋 / 路地

部分詳細：配置図兼1階平面図



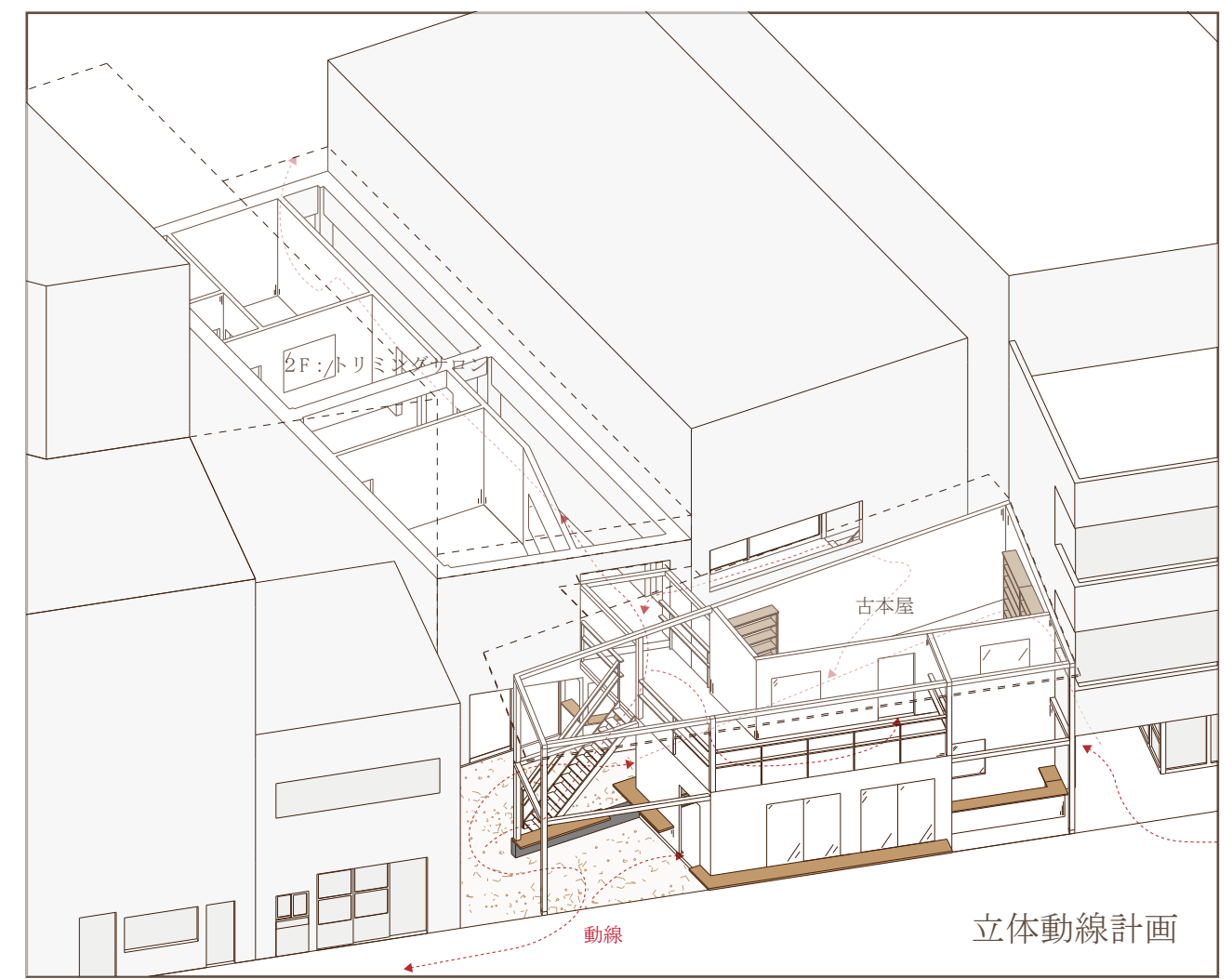
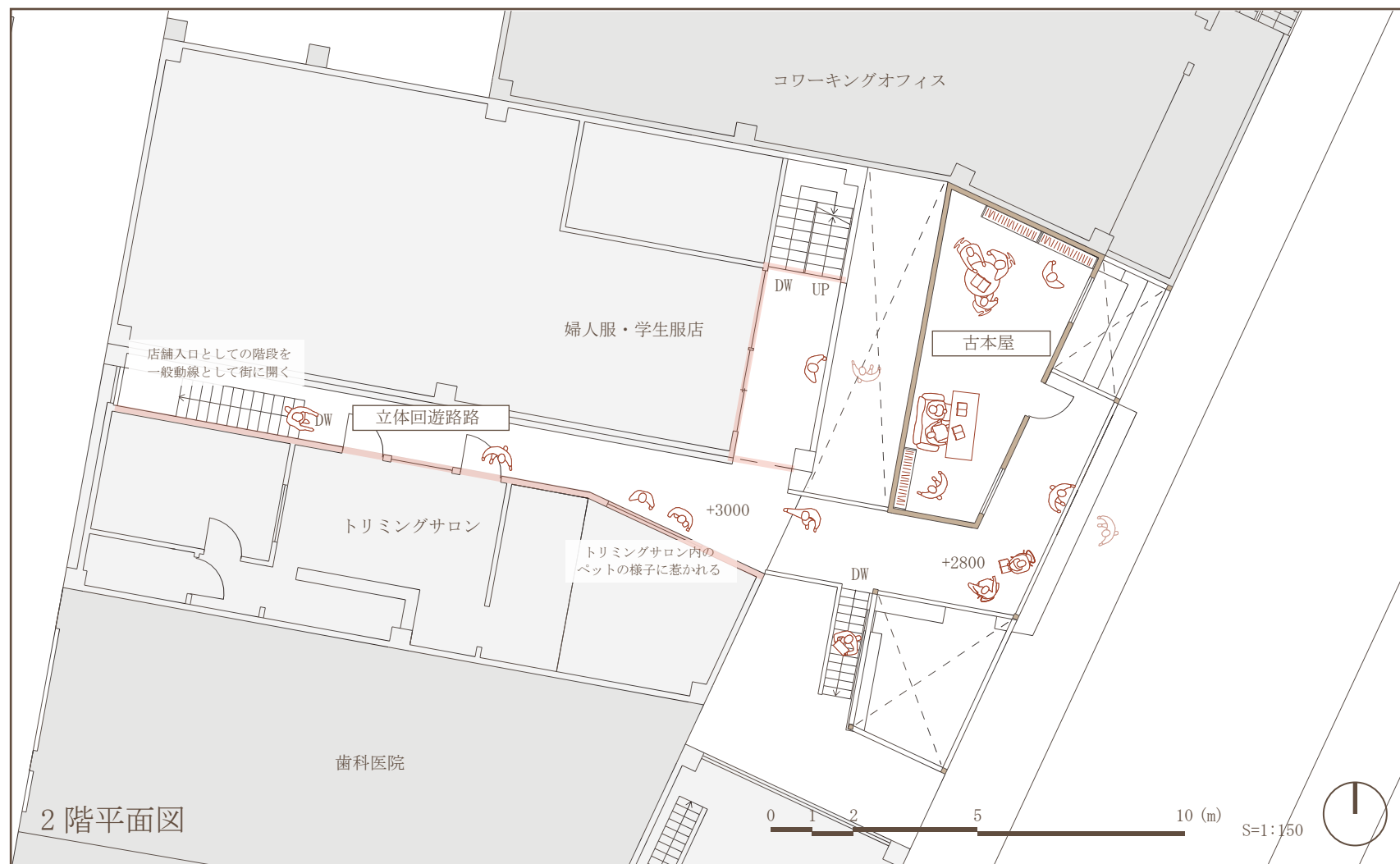
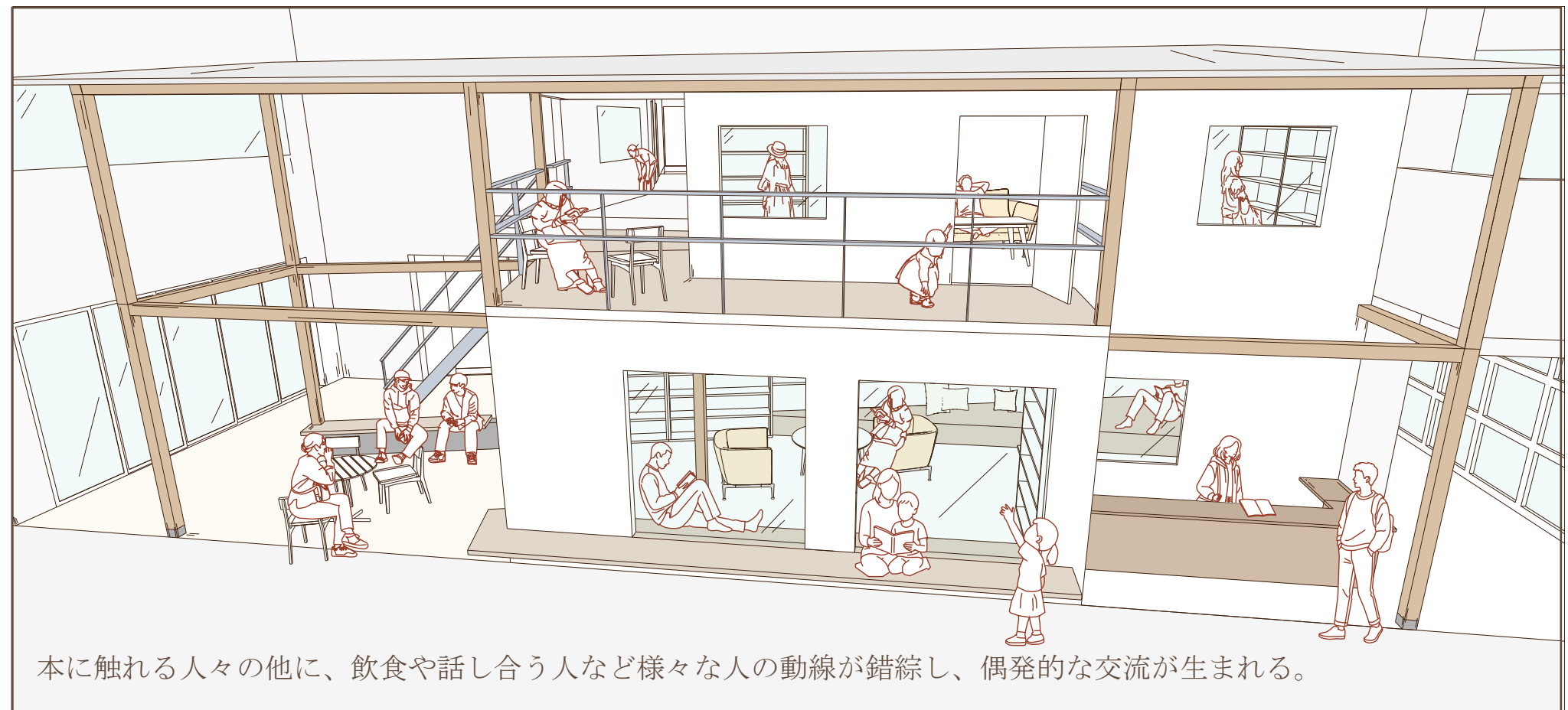
敷地現状詳細

■ 立地特性

計画対象範囲の中心に位置する、
面積の小さい建物が連続

■ 解体・減築対象建物

空きビルと、ほとんど稼働していないシェア店舗など3棟を解体。隣接する美容室や服店などを改修する。



1 1 設計：シェアキッチン / ランドリー / 集会室



敷地現状詳細

■ 立地特性

百貨店と商店街を視覚的につないでいる駐車場

■ 解体・減築対象建物

閉店した2階建てカフェを解体

